



通信

HP 学校だより
R6. 10. 10
NO. 23
文責 伊藤美佳



「あこがれ」の姿

常々「あこがれ」を大切にしたいと子どもたちに伝えていきます。最近、こんな「あこがれ」の姿が見られたので紹介します。

- ・最近落書きが多く、掃除の時間も気にして見てくれていた6年生の子たち。せっかくだけきれいにした机の下に落書きを発見し、「何とかしたい」と担任の先生に伝えました。そこから、全校に何を伝えるのか、どう伝えるのか考え、担任の先生に文章を確認してもらった後で、校長室に報告しにきてくれました。次の日、朝会で自分たちの考えや思いを全校の前で伝えました。
→自分たちの力でより良くしたいと行動したことに「あこがれ」ます。先生に言われたのではなく、自分たちで最適解を見つけて活動できたことに感心しました。
- ・5年3組の廊下のタイルが浮き上がってしまいました。つまりくもいたので、タイルをはがし、汚れをとることにしました。やっていると、興味深そうに寄ってくる子はたくさんいます。しかし、「やってみよう」を実行することは素敵なことです。しかし、長くは続きません。ところが、昼休みの間、こびりついた糊をはがす手伝いをしてくれた子たちがいました。地味な仕事ですが、廊下のタイルを貼るためには必要な仕事です。その子たちは「楽しい」と言って、気持ちよく手伝ってくれました。
→仕事を楽しもうとする気持ちや最後までやりきろうとする態度に「あこがれ」ました。おかげで、廊下のタイルがきれいに貼りかわり、つまりく人がいなくなりました。ありがとう。

「あこがれ」の姿は、善い行いをした人だけに見られるものではありません。失敗しても、その失敗を認めて謝ったり、「やりなおし」をしようしたり、そんな姿には「あこがれ」ます。自分の失敗を「①ちゃんと認められる ②正直に伝えられる ③謝ることができる」ことは、当たり前には思えますが、なかなかできないことです。

子どもたちに「失敗は成功のもと」と感じさせるためにも、周りの大人は、失敗を責めるのではなく、正直に伝えられたことを認め、「やりなおし」をする機会を与えたいです。「やりなおし」を自分で考えられる子は自分で、必要であれば大人がサポートして一緒に考える、そんな豊坂小学区でありたいです。

はっけよい!

先週の木曜日、金曜日が雨天のため、すもう大会が実施できませんでした。そのため今週の体育の時間を使って学年ごとの紅白戦を実施しています。子どもたちの必死に戦う姿を見ると、大きな声で応援したくなります。まだ、全学年が紅白戦をしていませんが、今週中には結果が出ると思います。紅、白、どちらも全力でがんばれ!

代表者戦は、11日(金)の昼休みの時間を使って行う予定です。全校の前で、まわしを締め、土俵で行います。初めて見る本格的なすもうを、1年生の子どもたちがどのように感じ、観るのか楽しみです。